

第2章

今後のグローバルな 事業環境に影響を与えうる メガ・トレンド

第1節

新興諸国経済の類型化

第2節

新興諸国経済の現状と将来

第3節

増え続けるインフラ需要

第4節

高度化する消費

第5節

サービス経済化の進展

第6節

持続可能性への留意

第2章

今後のグローバルな事業環境に 影響を与えるメガ・トレンド

本章では、我が国の対外的な稼ぎ方の基軸となる3つの力、すなわち、「輸出する力」、「呼び込む力」、「外で稼ぐ力」の今後に影響を与える世界経済の大きな流れ～メガ・トレンドについて紹介する。

以下では、今後とも高い成長が見込まれる新興諸国

経済に着目し、これら諸国・地域の社会・経済的諸特徴や将来性、これら諸国・地域が抱える中長期的な諸課題などを明らかにする。そして、こうした新興諸国経済のメガ・トレンドが、我が国の対外的な稼ぎ方にとってどのような意義を持つのかを明らかにする。

第1節

新興諸国経済の類型化

本節では、新興諸国経済のメガ・トレンドを論ずるにあたって、まず、世界銀行の定義に従い、新興諸国146か国・地域を所得水準に応じて3つのグループに分割する。さらに、これに高所得国76か国・地域を加えた計4つのグループについて、新興諸国経済の社会・経済的特徴や将来見通しに関するさまざまな比較分析を行う（第I-2-1-1-1図）。

ここで、「高所得国」は、一人当たりGNIでみた2013年の所得水準が12,746ドル以上の国・地域と定義している。G7諸国、ユーロ圏諸国等いわゆる先進国とされる国など76か国・地域で構成される。さらに、中東産油諸国など多くの資源国もここに含まれる。

新興諸国・地域は、同じく一人当たりGNIでみた2013年の所得水準1,045ドルを境に、「低所得国」と「中所得国」に分類している。「中所得国」は、さらに、4,125ドルを境に「上位中所得国」と「下位中所得国」に分

類している。

「上位中所得国」は、中国、タイ、マレーシア、メキシコ、ブラジルなど、アジア、東欧及び中南米の工業化が相当程度進んだ国・地域を中心に55か国・地域で構成。アフリカ地域の石油輸出国の一部もここに含まれている。

「下位中所得国」は、アジア諸国の中でも後発の工業諸国や北アフリカ諸国など工業化が遅れている国々を中心に50か国・地域で構成されている。さらに、インド、インドネシア、ナイジェリアなどといった大きな人口を抱える資源国や新興工業国がここに含まれる。

「低所得国」は、南部アフリカの国々を中心に計41か国・地域で構成されている。

人口は、「下位中所得国」が最も多く26億人、次いで「上位中所得国」が24億人である。この2つのグループで人口規模50億人の「中所得国」を構成している。

第 I-2-1-1-1 図 新興諸国経済の類型化

	高所得国 13 億人	新興国 58 億人		
		中所得国 50 億人		低所得国 8 億人
		上位中所得国 24 億人	下位中所得国 26 億人	
所得水準（一人当たり GNI） 2013 年	12,746 ドル以上	4,126 ドル～12,745 ドル	1,046 ドル～4,125 ドル	1,045 ドル以下
国・地域の総数	76	55	50	41
主な構成国・地域	G7 諸国 ユーロ圏諸国 韓国 台湾 香港 シンガポール ブルネイ オーストラリア ニュージーランド ノルウェー スイス チェコ ポーランド ロシア チリ プエルトリコ ウルグアイ バーレーン イスラエル クウェート オマーン カタール サウジ UAE 等	中国 マレーシア タイ トルコ ベラルーシ ブルガリア カザフスタン ルーマニア アルゼンチン ブラジル コロンビア ジャマイカ メキシコ ペルー ベネズエラ アルジェリア イラン イラク ヨルダン リビア チュニジア アンゴラ ボツワナ モーリシャス 南アフリカ共和国 等	インド インドネシア ラオス モンゴル パキスタン フィリピン ベトナム ウクライナ ウズベキスタン ボリビア ホンジュラス パラグアイ エジプト モロッコ カメルーン コンゴ共和国 ガーナ ナイジェリア スーダン ザンビア 等	バングラディシュ カンボジア ミャンマー ネパール タジキスタン コンゴ民主共和国 エチオピア ケニア リベリア マダガスカル モザンビーク ルワンダ タンザニア ウガンダ ジンバブエ 等

資料：世銀「WDI」から作成。